

# 山形大学広報誌 みどり樹

とチップー、フレッシュトマトのチリタネスカサレ  
のマリネとツルムササキの軽いクリームソース  
バジルのペーストとじゃがいも、  
いんげんのジェノヴァスパ  
¥1100-  
\*¥11000

しいたけと庄内豚ベーコン ¥1100  
Rissotto (リゾット)  
庄内キノコとイタリアチーズのリゾット

特集

大学とシェフと生産者と。  
在来野菜を甦らせた全国が羨むモデルケース。

研究室訪問 / 工学部

「日本を地方から元気にする」をテーマに  
名だたる教授陣が熱烈トークを展開。



# 大学とシェフと生産者と。 在来野菜を甦らせた 全国が羨むモデルケース。

温海カブや平田赤ネギ、民田ナスなど、ある限られた地域の中で伝統的に栽培され、大切に食されてきた在来野菜。ここ山形はそんな在来野菜の宝庫といえる。

その在来野菜を介して出会ったのが農学部の江頭准教授と鶴岡市のレストラン「アル・ケッチャーノ」の奥田政行オーナーシェフ。在来野菜の魅力を学術的に解明し、それらを調理に生かすという美味なるコラボレーションを展開している。在来野菜に新たな命を吹き込んだ二人の思いに耳を傾けてみたい。

## 在来野菜は地域の宝物、 同じ思いで調査と調理に励む日々

—— 対談の冒頭にあたり、まず、それぞれの在来野菜との出会いについて。

**江頭** 私は福岡出身で大学も関西圏でしたから、20年前に山形に移り住んで初めてだだちゃ豆や温海カブを食べて感動したのが始まりです。今までに食べたことのないおいしさで、いつかこういう野菜を研究材料にしたいと思ったんです。

**奥田** 私は地元出身なので温海カブや民田ナスをごく普通に食べて育ちました。東京にいた時に温海カブが送られてきて、それを食べたシェフが“これはすごい”と大絶賛。その時に、鶴岡の在来野菜の素晴らしさを改めて認識しましたね。でも、鶴岡に帰って来てもしばらくは在来野菜を扱いませんでした。それらを美味しく食べるテクニックをまだ身につけていなかったからです。その後、江頭先生と初めて会った時に“宝谷カブ”がなくなってしまったという話題になり、とてもガッカリして悲しい思いに暮れていました。それが偶然にも、その日の夕方にお客さんが宝谷カブの粕漬けを持ってきてくれたんです。失ってしまったという喪失感から一気に“あった”という歓喜。すぐに江頭先生に電話しましたね。

**江頭** 奥田さんがレストランの名前を「アル・ケッチャーノ」にしたのは、もうご存じの方も多いでしょうが、地元にはこんなにおいしいものが「あったよねえ～」を意味する庄内弁と聞いています。山形にはかつて在来野菜がたくさんあったようで、



「幻のかぶ宝谷かぶの、カブらないレシピ～9つの調理法でつくる宝谷かぶの魅力満載レシピ24」漬け物から和食、イタリアン、コリアン風まで、鶴岡市宝谷地区に伝わる宝谷かぶを使った奥田シェフを含めた宝谷かぶファンの多彩なレシピを一挙に紹介している。

私も探し始めています。時には農家をいっしょに訪ねてみようということになったんです。2001年頃ですね。私自身、いつかは取り組みたいと思っていた在来野菜の調査を本格化させた頃ですから。それからは、各地の在来野菜が“あった”“なくなってしまった”と一喜一憂。見つけた時には宝物に出会ったような気持ちになりますね。

## 研究者と料理人と生産者が協力し、 在来野菜の素晴らしさを伝える

**奥田** 見つけ出した在来野菜の歴史や成分について江頭先生が調べてくれることで、今までは思いつかなかったような今風の料理ができるようになりました。江頭先生とのやり取りや経験を経て、今では素材を一口食べるとどんな料理にすべきかが瞬時に降りてくるという感じですね。

**江頭** 奥田さんの手にかかる、あの野菜がこんな風になるのかという感動すら覚えます。野菜の価値が何倍にも膨らみます。私が学術的にどんなに素晴らしい



カラトリ芋  
茎の部分は干して芋がらとして冬の保存食に。芋の部分は煮物にして独特のネクトリとした食感を味わう。



**江頭宏昌**

えがしらひろあき ● 農学部准教授、山形在来作物研究会会長／1964年福岡県生まれ。京都大学修了。在来野菜の成分や歴史文化を調査研究。多くの在来食物を掘り起こしてきた。



**奥田政行**

おくだまさゆき ● イタリアンレストラン「アル・ケッチャーノ」オーナーシェフ、「食の都区内」親善大使／1969年鶴岡市生まれ。東京の有名店で修業の後に帰郷。2000年に自店オープン。



温海カブ  
鶴岡市温海地区で焼畑農  
法で作られている鮮やかな  
赤カブ。

野菜だとい  
っても“おい  
しい”という感動  
がなければ一般の人  
にはなかなか伝わり

ません。研究者だけでは野菜を残すことは  
難しいんです。料理をする人がいて、さら  
に生産してくれる人がいないとつながって  
いかないんです。

—— 一般的なカブ、ゴボウ、ネギなどと  
在来野菜の違いは？

**江頭** スーパーなどに並ぶ野菜は、万人受  
けするように無難な味になっています。その  
点、在来野菜は苦い、辛い、香りが強い  
など、個性的すぎてどう料理するかが本当  
に難しい。奥田さんの素材の持ち味を生か  
したアレンジは実に見事です。

**奥田** 何度で苦みが消えるとか、ミロシ



江頭准教授が代表を務める山形在来作物研究会と奥田シェフ  
が受賞した、「第1回辻静雄食文化賞」の賞状。

ナーゼという酵素が云々とか、科  
学的な理論を調理に生かしていま  
す。こういった江頭先生からの受  
け売りをイタリア人の講習会で話を  
したら、最初は相手にしてくれなかつ  
た人たちが“おまえ、すごいな”という感  
じになりましたね。江頭先生たち科学者  
の言うことは、料理界にとっては革命的  
なことなんです。

**江頭** 研究者の間で知られていることをわ  
かりやすく料理人の方に伝えているだけ  
です。料理以外にも私たち研究者にとつての  
常識が何かの役に立つことがあるというこ  
ともわかってきました。

### 科学の力でおいしさを引き出し おいしさが研究意欲を盛り上げる

**奥田** 料理における科学的なことを自分で  
勉強しようと思っても、料理人は仕入れや  
何やらでなかなか時間がとれない。その点、  
私は江頭先生に理解できるまで教えてもら  
えるので大変助かっています。料理人とし  
て一番いい時期に在来野菜に巡り会い、江  
頭先生にお会いできたことで0.何秒後に  
どんな味になって、辛みが来るとか、酸味  
がどうなるとか、時間軸で味の変化を捉え  
られるようになり、自分だけの味の方程式  
ができたのです。普通は料理を作るには辞  
典のようなものを見て、ニンジンならニン  
ジンの料理というページを参考に、それに  
何かを足して料理していくというのが一般  
的なんです。その辞典の前の時代に自分  
が行って素材から、もう一回、一から考え  
ることができるようになったんです。する  
と、スタートラインが違うのでまったく違  
う料理、日本で、世界で一つだけの料理  
になるので、それを食べるために遠くから  
いろんな人が来てくれるようになりました。  
その大元のところの素質を開花させてく  
れたのが江頭先生というわけです。

**江頭** いえいえ、そんなこととんでもない  
ですよ。

**奥田** そんな江頭先生をびっくりさせたい  
とか、いろいろ考えて試行錯誤するわけ  
ですよ。

### 在来野菜の魅力をも二人三脚で広め 生産者と三位一体で育てていく

**江頭** 在来野菜には独特のえぐみや苦み  
があるものや香りの強いものも多く、一般  
的には料理しにくいものなんです。奥田さ  
んの手にかかるとびっくりするくらい美味

しくなるんです。

**奥田** 「野菜の声を聞いて料理にしてい  
く方法」、これは江頭先生と在来野菜を研究  
した時の感覚を資料としてまとめたものな  
んですが、えぐみや苦みを生かす方法にも  
触れています。味の第一印象、第二、第三  
……と書き出して、その対義語を書き出  
しています。料理は同化と対比なので、同じ  
味や対照的な味で個性を際立たせたり抑え  
たりするという料理界でだれも言ったこと  
のない新しい料理理論を近々世界料理学会  
で発表する予定です。そのほかにも、噛む  
回数が多くなると唾液中のアミラーゼが多  
くなって糖分が増える、じゃ、料理人とし  
てはどうすれば噛む回数を多くすることが



最近では、お互いに忙しくてなかなか会えない奥田シェフと江頭先生。  
会えば、それぞれが持ち寄った在来野菜の話題で大いに盛り上がる。

できるかを考えて、野菜の切り方を工夫し  
たりするわけです。どれも江頭先生が教え  
てくれたことがヒント。野菜の遺伝子から  
の味をたどるとかは大学の先生がいなけ  
ればできないことですから。江頭先生や在来



アサツキ  
根つこのほうが白くて太い。  
葉っぱの部分を薬味として  
使うアサツキとは異なる。



酒田キュウリ  
約100年前から栽培されて  
いるシベリア系ビクルス型品  
種。生では独特の苦味がある  
が、漬物やビクルスに最適。

野菜と出会ってなければ、今頃、ごく普通のイタリアンシェフになっていたと思います。

江頭 私は在来野菜の研究をしながらも、



在来野菜は本当に大事なのか自問自答の時がありました。でも、奥田さんが美味しく料理してくれることでみんなが在来野菜の大切さを実感してくれるようになって、それを見て、私ももっとちゃんと調査しなくちゃいけない、途絶えさせないような研究をしなくちゃいけないという気持ちがグンと強くなりましたね。奥田さんがいなければ、研究は続けられなかったと思います。——全国的にここ庄内に続けとといった動きが出てきているようですが。

奥田 そうですね。みんな真似しはじめていますが、気質が違くと庄内のようにはうまいかないみたいです。庄内にはいい生産者がいて、在来野菜があって、大学があって条件がそろっている。私が料理の腕を上げていけば必ず庄内は化けると思っていました。江頭先生とはいろんな生産者のところに行って、いろんな人に会いましたね。み

んながみんな“(在来野菜を)見つけてくれてありがとう”って言うてくれて、それから自分の野菜の自慢をはじめなんです。

江頭 私が生産者の人に小難しいことをいろいろと質問をしていると、雰囲気が段々固くなってしまおうんですが、奥田さんが「この野菜はこんな風に料理するともっと美味しくなります」と言うときみなさんの目がららんと輝いて、また雰囲気がすごく和やかになったものです。

奥田 2人でやっている講演会もだいたいそんな感じですね。おいしさで心を掴んで、大学の先生の話で説得力を増すような。

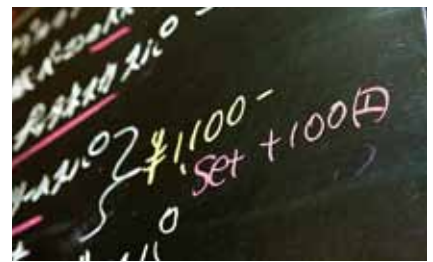
江頭 庄内の宝谷カブや藤沢カブ、民田ナス、置賜地区の雪菜やウコギなど、山形にはまだまだたくさんの在来野菜が残っていますが、農業後継者の激減で今後どうなっていくか心配です。

奥田 いま私がもっとも注目しているのは、上市市の金谷ゴボウ。フランスの三つ星レストランで使われるような品格があります。

江頭 香りはすごく上品で凛としているのに味はいやな主張がない。でも、生産者が非常に減っていて、残るかどうか心配しています。そういう野菜が山形にはまだまだ眠っています。その作物の多様な文化を次代に伝えていくためには、歴史や成分を調べることも大切ですが、何よりも生産者の方々に元気になってもらって、作り続けることが大事だと思ってもらわないとだめなんです。それは研究者だけでは難しく、料理人の方や行政の方など、いろんな方と手を結ばないと在来野菜は守っていけないだろうなと感じています。

奥田 役割分担が大事。料理人としては、在来野菜本来の個性を引き出して、美味しく食べてもらって小さな幸せを日本中にたくさん作ります。小さな幸せの集合体が地方を動かす力になるからです。ここ鶴岡には研究者がいて、伝統的な味にする漬物屋さんがあって、私は宣伝役、そして新しい味を作り出す、生産者を支えるいいコマがそろっています。レストランは市場価格に左右されることなく料理の値段を勝手に決められます。例えば、民田ナスを使えばプラス200円とかにして、それを生産者に還元していくことで生産者を買って支えられるというわけです。地域の農家の在来野菜離れを食い止める特効薬はレストランかもしれない。

江頭 美味しいから、自分も食べたいし、家族やお世話になった人たちにもお裾分け



「アル・ケッチャーノ」隣、「イル・ケッチャーノ」の店内メニュー。在来野菜を使った料理の価格は100円程度プラス。

したいからと採算を度外視してでも在来作物を大事にしてきた農家の人がたくさんいます。そういう人たちがいたから私も研究ができていて、本当に感謝しています。生産者のみなさんを支えてくれる奥田さんのような料理人がもっと増えてくれて地域がもっともっと元気になってくれればいいと願っています。

### 地域の食文化の向上に貢献 第1回辻静雄食文化賞を受賞

今年4月、江頭准教授が代表を務める山形在来作物研究会と奥田さんが、レストランと研究機関との連携によって地域の食文化向上に貢献したとして「第1回辻静雄食文化賞」を受賞した。辻静雄氏は辻調理師専門学校創設者でフランス料理研究家。受賞者はもう1人のみ。記念すべき第1回の受賞ということで栄誉もひととき。奥田シェフと江頭先生は、大学とレストランというまったく新しい連携で、これからも地域の美味しい在来野菜を見つけては守り広めてくれることだろう。



平田ネギ  
北前船が日本海を往来していた江戸時代末期に上方商人から伝わった。生では辛みが強く、煮ると甘みが強くなる。

## 人文学部

Faculty of Literature and Social Sciences

### 若手教員を対象としたFD研修を実施



人文学部では、去る7月14日(水)に第二会議室を会場とし、「若手教員のための学生指導に関する研修会」を実施しました。

人文学部のFD活動の一環として、特に採用後間もない若手の教員を対象に、今回はじめておこなわれた研修会です。その目的は、人文学部の教育内容の特徴や、FD活動の意義を十分に理解してもらうとともに、学生の人格や立場を尊重した教育指導の一層の充実をめざすというものでした。

当日はまず渡邊洋一学部長の挨拶があり、続いて、学部教育アドバイザーの清塚邦彦、

下平裕之目標評価委員会教育方法検討部会委員から、教育指導と厚生指導にかかわる論点の解説がなされました。

その後、参加した教員との意見交換に移り、問題を抱えた学生との対応法や、大学の支援制度の利用法に関する注意点から、成績評価における平常点の扱い、さらにはカードリーダーの使用法まで、教育の方針に関する議論からテクニカルな解決法についての情報提供まで、活発な話し合いがなされ、充実したひと時を過ごしました。

### 小白川キャンパス合同 「動物実験教育訓練講習会」開催

## 地域教育文化学部

Faculty of Education, Art and Science



6月8日(火)、地域教育文化学部3号館にて小白川キャンパス合同の「動物実験教育訓練講習会」が開催され、食環境デザインコースの2、3年生を中心に57名が受講し、動物実験に関する倫理と実験用動物の操作法などを真剣に学習しました。

7月からは、受講学生らが中心になって「カシューナッツ殻液の生体機能性の解明」に関する動物実験が開始されました。これは、昨年11月に赴任された小酒井貴晴准教授の研究室(食品・栄養生理学ゼミ)

で実施される研究課題で、カシューナッツ殻液(おつまみのカシューナッツの殻から採れる液体)が動物消化管に生息するメタン産生菌を抑制する効能を詳細に検証するものです。北海道大学、(独)農研機構および(株)出光興産との共同研究で、メタンガスを低減させつつ、栄養素吸収を向上させる機能性の開発を目指しています。

## 理学部

Faculty of Science

### 北京林業大学理学院が理学部へ表敬訪問



7月14日(水)、本学と大学間交流協定を締結している北京林業大学から、同大理学院の張文杰院長ほか5名の訪問団一行が理学部を表敬訪問されました。

同大理学院と理学部は、平成19年2月に学部間交流協定を締結しており、以降、学生及び教職員の交流をはじめ、教育研究に関する情報交換等も積極的に行ってまいりました。その交流実績が認められ、今年2月に大学間交流協定へと発展しました。

訪問団一行は理学部内の教育研究施設や

附属図書館などを視察した後、理学部長をはじめ本学部教員と今後の交流の在り方に関して活発な意見交換を行いました。1日という短い滞在時間ではありましたが、双方にとって非常に有意義な訪問となりました。

医学部

Faculty of Medicine

## 第1回「Student Nurse 認定証授与式」を 挙行了しました

医学部では、既に医学生における「Student Doctor制度」を実施していますが、この度、看護学科においても「Student Nurse制度」を導入いたします。

これは、看護学生を「Student Nurse」と認定し、領域別臨床実習(主に附属病院)において学生が積極的に看護行為を体験学習できるようにする制度です。看護学生としての自覚、医療に携わる人間としての責任感や使命感を再認識させ、社会及び患者に対し、看護学生であってもStudent Nurseと

して一定レベルの知識と技量を有していることを示すことで、その者の看護行為を大学(病院)が保証することを目的としています。看護実践能力の実技試験を実施し、臨床看護実習資格判定に合格した3年生54名に対し、8月23日(月)に第1回「Student Nurse 認定証授与式」を挙行了しました。

近年、看護系大学では、卒業時の看護実践能力をいかに高めるかが喫緊の課題となっておりますが、本制度はこの課題に積極的に挑戦するもので、日本でも初めての試みとなります。



工学部

Faculty of Engineering

## 第2回山形大学工学部 キャンパス景観シンポジウムを開催しました

6月23日(水)、第2回山形大学工学部キャンパス景観シンポジウム「大学から始まる美しい米沢」を開催しました。

本学部では、近未来のキャンパスを美しく快適にするための整備計画(景観マスタープラン)を学生・専門家・地域の方々と交えて練り上げました。景観マスタープランには、建物の統合とオープンスペース創出、メインストリートとなる2つの大通りと3つのプロムナードの創出、地域に開かれたファカルティパークの創出などが挙げ

られており、これらのプランを2050年までに達成することを目指します。

シンポジウムでは、実際に視察した他大学キャンパスの紹介や、美しいキャンパス景観が学生に与える影響等についてのパネルディスカッションなどが行われました。

終了後には「建築への考え方が変わった。自分にできることであれば貢献したい」などの感想が聞かれ、みんなが誇りに思うキャンパスを模索する上で有意義なものとなりました。



農学部

Faculty of Agriculture

## 今年もアフリカから19名の研修員が 稲作技術を学びに訪れました

この事業は、独立行政法人国際協力機構(以下JICA)の依頼を受け実施したものです。

農学部で研修員の受入は、平成20年の受入から今年で3年目となり、ケニア、タンザニア、ガーナ、モザンビーク、ウガンダ、エチオピア、ブルキナファソ、セネガル、マダガスカルの9カ国から19名の研修員が、8月30日(月)～9月24日(金)まで、稲作収穫後処理技術(ポストハーベスト)について研修を受けました。

この地域の稲作は、不十分な稲作技術や灌漑設備の未整備などにより生産性が低く生産ロスが生じているのが現状です。

そこで、農学部とJICAの連携により、庄内地域で有する稲作技術や経験の蓄積を活かし、各国の食料自給率向上のために、稲作収穫後処理技術(ポストハーベスト)について指導を行いました。

研修員は帰国後、各国で稲作面積の拡大と、食糧自給率の向上を目指し活動します。



# 「日本を地方から元気にする」をテーマに 名だたる教授陣が熱烈トークを展開。

中村修二 カリフォルニア大学 サンタバーバラ校 教授 / 城戸淳二 工学部卓越研究教授  
大場好弘 工学部長 / 柴田孝 山形大学国際事業化研究センター副センター長(司会)

青色LEDや青紫色半導体レーザーなどの発明で知られる  
中村修二カリフォルニア大サンタバーバラ校教授の特別記念講演に引き続き、  
中村教授、大場好弘工学部長、城戸淳二教授の3名をパネリストに、  
柴田国際事業化研究センター副センター長の司会のもとパネルディスカッションが実現した。  
「日本を地方から元気にする」をテーマに、日本を元気にするために  
ここ米沢でできること、やるべき事は何かを、それぞれの立場、それぞれの発想で提言し、  
高校生や一般の方々約1,000人にのぼる聴衆の関心を集めた。



中村修二 教授

青色LED

城戸淳二 教授

白色有機EL

工学部  
研究室訪問

変える、動かす原動力は人間力。  
先生も学生も、優秀な人材が集まる  
魅力ある工学部、活力ある米沢へ。

パネルディスカッションを終えた中村教授と城戸教授の和やかなツーショット。平成15年には「突然変異を生み出せ」を共著するなど同じ研究者として接点も多く、親交も深い。



## 発明や研究に適した土地柄 優秀な人材が集まる環境、醸成へ。

**柴田** 本日は熱い3名の先生方に熱く語っていただきたいと思っています。まず、大場工学部長にお伺いします。地方から日本を変えるということは、大学としてはどう捉えるべきかということと、山形大学の工学部を豊かにするためにはどうしたらいいとお考えかをお聞かせください。

**大場** 地方から日本を変えるという以前に、地方こそが自分を変えたいと思っているのではないのでしょうか。ここ米沢は、4カ月ぐらい雪が降り、学校に来るのも生活していくのも大変。そんなに恵まれているわけでもないし、地下鉄があるわけでもない。でも、ここには考える時間があるし、直江兼続のドラマでもあったように貧しくても次の世代を育てる意識があります。本気でやりたい人、本当に危機を感じている人が集まって事をなすのであれば東京である必要はないと思うんです。大学にしかできない教育、研究はどこが強いを見極めて、そこに特化して行って成功するというのがあるべき姿だと考えます。地方であってもすごい研究者がキャンパスをウロウロしている、そんな大学ならワクワクするじゃないですか。研究費に関して言えば、いい提案をして競争に勝てば研究費はけっこう集まるはずですよ。すべてはいい人材を集めることに尽きると思います。

**柴田** 中村先生には、米国から見て何が課題かということをお話いただけます。

**中村** 基礎研究は田舎でないとできないんです。だから、山形は研究・発明にはふ



**中村修二**

なむらしゅうじ●カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授／愛媛県生まれ、徳島大学出身。青色LEDや青紫色半導体レーザーの製造方法などの発明・開発者として知られ、ノーベル賞の呼び声も高い。2000年より現職。

さわしい場所。開発や発明の始まりは個人の発想・アイデアから。日本はその発端は素晴らしいんですがビジネスセンスが弱い。日本のビジネスモデルは国内だけ、あるいは県内だけ。最初からグローバルに展開できないものだから海外市場では非常に弱い。韓国のサムスンなどは最初から世界に向けて展開していますからね。やはり、日本は島国だからなんでしょうか。それと英語が話せないというのも大きなハンデになりま



す。理系に進みたい人は日本語は忘れて英語だけやりなさいと言いたいくらいです。それから日本をどうやって変えるかということですが、変えるのはやはり歴史的に見ても地方からですよ。でも、一度沈没しな



**城戸淳二**

きとじゅんじ●大学院理工学研究科卓越研究教授／大阪府出身。1993年世界で初めて白色有機ELの開発に成功。近年は照明器具への応用と実用化をめざし尽力している。この分野における第一人者として高い知名度を誇り、わかりやすい講演にも定評がある。

いと変わらないかもしれませんね。一度沈没したらガラッと変わるとは思いますが。

### まず、地方自身が変わらなければ。 米沢の持ち味を伸ばしてアピール

**柴田** 城戸先生には、有機ELの研究から企業化まで、いま非常に大きな壁にぶつかっていると思うんですが、そのご苦労を踏まえて、地方から日本を変えるには何が重要かといった観点からお話いただければと思います。

**城戸** 有機ELの研究を始めて20年ぐらい経ちますが、白色有機ELの開発に成功し順調にいくかなと思ったら中村教授が徳島の方で青色LEDを先に完成させて市場に出回ってしまっていて、これがまず大きな障害になりましたね(笑)。それはともかく、何が本当の障害になっているかという一つは人材です。日本人は都会志向というか、若い人はどうしても東京、東京と、すべてが東京に集まるものですから会社も東京。大阪の中小企業の社長と話しても大阪ではダメだから東京行くしかないとか、東京か中国なんですね。だから、米沢で何かしようと思っても人材が集まらない。大学進学にしても、高校生から見たら同じ偏差値レベルだったらもっと住みやすいとこ

ろ、雪のないところに行きたがる。できれば東京に行きたがる。ベンチャーや大学で人材を募集してもなかなか集まらない。米沢にしかないものを伸ばしてアピールしていかないとこの人材の問題はなかなか解消できないと思っていますね。

### 日本人から独創性を排除する 大学受験を頂点とする画一的な教育

**柴田** 地方から変えるには何が重要かということで、人、人材という話が多かったようなので、次は人に焦点を当てて話を進めていきたいと思います。昔の日本というのは各地の藩校がけっこう独自の教育をしていたものです。ところが、最近の教育そのものが画一的になってしまっていると思えてなりません。そんな観点から、中村先生にはアメリカと日本の違いなどをお聞かせいただければと思います。

**中村** 日本の教育は大学受験を頂点とする画一的な教育ですよ。本来の教育は一人ひとりの個性を伸ばすべきもの。それは先生もわかっているはずなんですが、それをやってしまうと先生が偉くなれないというのが現実。その点、アメリカはまったく逆に、高校生まではほとんど遊んでいます。それでも大学は好きなどころには入れるんです。その代わりに、入ってからは猛烈に勉強します。本当に好きなことだからグング

### 青色LED vs 有機EL、よきライバルで同志のふたり



左／城戸教授が開発した有機ELも青色LEDの一種。発光層に有機化合物を利用している点で特長で、ディスプレイ・照明市場の注目株。右／中村・城戸両教授による共著。研究者・技術者として日本を代表する両氏が白熱した議論を展開。



### 大場好弘

おおばよしひろ ●工学部長／東北大学理学部卒業。専門は物質化学工学、山形大学工学部助教授、米国オレゴン州立大学 博士研究員を経て2000年に同工学部教授に。以後、評議員、学部長などを歴任し、2007年9月に学部長就任。

ン成績も伸びていくんです。

**柴田** 次に、城戸先生がお考えになる独創性、グローバリズムについてお聞かせください。

**城戸** 独創性、人のやらないことをやるということですが、やはり常識にとらわれすぎの人が非常に多いですね。例えば、有機ELの研究を始めた頃の周囲の反応は有機物に電気を通して光らせるなんて非常識、無理、そんな冷ややかなものでした。でも、おもしろくて研究に没頭し続けた結果なわけです。みんな持っている独創性を常識にとらわれて封印してほしくないですね。もう一つ米国との違いという点でいうと、日本では転学部・転学科がしにくいということがネックになっているようにも思います。自分のやりたいことがまだハッキリしない高校時代に決めた進路、もっと軌



特別講演会およびパネルディスカッションの会場となった山形県立米沢興譲館高等学校の講堂には、高校生や大学生、一般の人々約1,000人が詰めかけ熱気に包まれた。世界的に活躍する教授陣の貴重な話に熱心に耳を傾けていた。

道修正をしやすいにしてもいいんじゃないでしょうか。

**柴田** これまでの話を踏まえて、今後、工学部の中の仕組みをどのように変え、優秀な高校生たちが入りたくなるような魅力ある工学部にしていってお考えかを大場学部長にお伺いします。

**大場** 理学で追究された真理を実際の人々の暮らしにつなげるためにはさまざまな工学の技術が必要です。そのため、座学よりも現場で実験をするなどのチャンスが多いのが工学部。さらに、そういった専門性に加えて国語や英語も含めた人間力を重要視していきます。社会に出て幸せになれる



### 柴田孝

しばたたくし ●山形大学産学連携教授／米沢市出身、東北学院大学工学部卒業。現・NECパーソナルプロダクツ株式会社、PC技術統括部長、取締役、執行役員を経てエグゼクティブアドバイザー兼エヌワイデータ株式会社取締役社長を務める。

る人間を育てるということを意識した改革を行っていきたいと思います。本来、工学部は実用化研究なんですけど、日本の工学部は理学部寄りになってしまっているという点に大きな問題があります。

**柴田** 中村先生、アメリカでの企業と大学の関わりはどんな感じなんでしょうか。そして、いまの教育制度の中でがんばっている高校生に何かアドバイスをお願いします。

**中村** 共同研究やコンサルティング、ベンチャーなどで企業と大学の関わりは密接です。先生は大学の外で得た生きた知識を学生に伝え、いま、リアルタイムで起こっていることを学生に教えています。本に書かれていることはもはや過去。教科書に書



パネルディスカッションに先駆けて行われた特別講演会では、中村教授が高校生に向けて「夢を見つけることの方が重要。永遠のサラリーマンに夢はあるか」と熱いメッセージを送った。

いてあることを教えるだけではダメなんです。高校生のみなさんには、一度、日本の国を外から見てみることをおすすめします。考え方がガラッと変わるはずですよ。

### それぞれの夢の実現をとおして 地域と日本の元気を取り戻そう

**柴田** では、最後にみなさんのこれからの夢をお聞かせいただいてこのパネルディスカッションを閉じさせていただきたいと思えます。

**大場** 具体的な研究とイノベーションで米沢に新しい発展をもたらします。大学はそれだけの力を持っていますから。

**中村** 世界中からさまざまな研究分野のトップをピックアップして会社を作り、グローバルな展開で大いに儲けて、以前いた会社を見返してやるぐらいの気持ちでいます。  
**城戸** 有機ELに関する企業が米沢に100社くらい生まれて、人材も豊富で夢のある街になればいいと思っています。



厳しい残暑の中、パネリストが三者三様の持論を展開して盛り上がったパネルディスカッション。会場を埋め尽くした聴衆は一応に満足げだった。

## 7月7日に人文学部国際学術講演会「アジアの発展—ドイツの発展」を開催！

人文学部では、去る7月7日に人文学部103教室を会場として、フォルカー・シュタンツェル駐日ドイツ大使を講師にお迎えして「アジアの発展—ドイツの発展」というテーマで国際学術講演会を開催しました。この講演会は、山形県EU協会、駐日ドイツ大使館の計らいにより実現したものです。参加者は、学生、大学院生、本学教職員、一般の方の参加もふくめて、約150名で、人文学部では最大規模の教室がいっぱいとなる盛況でした。

講演で、シュタンツェル大使は、日本

やドイツは大きなソフト・パワーを持つ国であり、世界全体の平和と自由のために、責任をもって行動すべきであると訴えました。講演ののち、学生たちから「東アジア共同体」が成立する可能性はあるかという質問が出され、中日韓で相互依存がどの程度すすんでいるのか、市民レベルでの運動はあるのか、そして「東アジア共同体」の形成にむけてリードしている政治家はいるのか、という逆質問の形で議論が交わされました。また、大国としての責任という講演会の内容を踏まえると中国の外交姿勢についてどの

ように考えるかという質問がなされ、これに対して、中国は急速に成長して国際社会のなかでその地位を占めるようになったので、中国が大国としての責任を十分に自覚して行動するには、もう少し長い目でみていく必要があるだろうとの考えを述べられました。

学生たちは、講演を聞いている時に、いきなり指名されて驚きと緊張の連続であったようですが、ドイツもしくはEUという立場からアジアを見た時に日本がどのように見えているのかということを考える貴重な機会となりました。



フォルカー・シュタンツェル氏の講演



質疑応答の様子



講演会場風景

## KENDO SEMINAR IN YAMAGATA

7月23日(金)から27日(火)まで、『KENDO SEMINAR IN YAMAGATA』が西川町で行われました。これは、地域教育文化学部所属の教員と学生が中心となり、地方(西川町)自治体と提携し、伝統的運動文化である剣道を通して、外国人(フィンランド)剣道愛好者と国際交流をおこなうことを目的としたものです。参加者は、フィンランド剣道連盟所属剣士10名、地元の西川町剣友会、山形大学遊芸部です。セミナーには二つの大きな内容がありました。一つは、日頃、

日本人指導者から剣道の技術指導をしてもらい機会に恵まれない海外(フィンランド)剣道愛好者で、とくに地域で指導的立場にいる者を対象に、剣道の技術指導・講義をおこなうことでした。もう一つは、地域(西川町)の文化体験(そば打ち体験、月山トレッキング、酒造り見学)、地域の人々との文化交流(フィンランド事情講演、西川太鼓、小学生による剣道基本形)をおこない、互いの親睦を深めることでした。

初めての試みでしたが、互いに充実し

た時間を過ごせたセミナーとなりました。今後も、スポーツを通じた地域の活性化を実践していきたいと思えます。



参加者一同



基本の形稽古



川西町との交流会



川西町の子供達と親睦を深める

# 山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、  
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。  
現役山大学生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1

1 釈台の前に座り、右手の平たい張り扇を叩きながら、軍記や武芸もの、人情話などを歯切れよく読む宝井琴柑さん。表情豊かな迫真の高座で観客を引き付ける。



2



3

2 地域寄席、この日の演目は「坂本龍馬とおりょう」。同じ演目をやっても、同じ結果にはならない。会場にいるお客様と一緒に空間をつくるのがライブの魅力。

3 台本と張り扇、扇子。扇子は左手でチョンと叩き、張り扇の合の手になる。根多(ネタ)は、師匠から弟子へ伝えられる。講談の依頼があれば全国どこへでも。

## 講談という伝統芸能の魅力を広めたい、朗読好きが高じて講談師となった先輩の挑戦。

宝井琴柑 講談師

横浜市出身の講談師・宝井琴柑こと綿貫麦さんが、進学先として山形大学を選んだのは、高校時代に高畠町で農業体験をして山形という土地に憧れたから。在学中もその農家を訪ねては農作業を手伝っていたほどの農業好き。大学卒業後、希望がなくなって農業専門の中堅出版社に就職できて安泰のはずだったが、わずか8カ月で退職し、講談師の世界に飛び込んだ。突拍子もない転身のようなが伏線はあった。小学生の頃から朗読が得意で、それを生かせる習い事として中学・高校時代には現在の師匠の講談教室に通い、東京まで講談を観に行ったりもしていた。当時は職業にしようという意識はまったくなかったのだが、出版社で営業としてセールストークを磨くうちに、他人の作った本を売るためのトークを磨く

よりも、大勢の前で自分自身の芸を売り物にする方がいいと考えるようになった。就職して社会に出て働くことの厳しさを知ったからこそ、俄然、講談師という職業が魅力的に見えてきたし、講談師としての厳しい修行にも耐えられたのだと、一度就職したことを回り道をしたとは捉えていない。そんなアグレッシブな綿貫さんの大学時代の専攻は表象文化論コース。文学、写真や映画、絵画、建築といった幅広い表象文化について学んだ知識が、現在の表現者という立場を支える柱になっていると感じている。そのほかにも、自閉症の子どもたちと交流を持つサークルで活動をしたり、山形国際ドキュメンタリー映画祭のボランティアを務めたり、学外での活動にも積極的に参加した。都心を離れて山形で過ごした

日々、出会った人々を通して物事の根本をきちんと見つめることを学んだという。これらの経験を踏まえて、後輩のみなさんに向けられたメッセージは、“誰にでもできる人生を、あなたがやる必要もないと思う。自分の可能性を知り、もっと迷い、もっと悩んでください”。言葉を商売とする人ならではの印象的な表現でエールを送ってくれた。今年の6月に二つ目に昇進し、いよいよ講談師・宝井琴柑としての本格的なスタートを切った綿貫さん。講談の最大の魅力は、日本語の美しいリズムにあるとして、その伝統を受け継ぎながらも新鮮さをもって表現していきたいと、自分にしかできない人生をしっかりと歩んでいる。

転身の成果

今回のランナー:



宝井琴柑

たからいぎんかん ●神奈川県出身。本名、綿貫麦(わたぬきむぎ)、平成16年人文学部卒業。一度は出版社に就職するも、8カ月で退職し、講師の道へ。今年6月に前座から二つ目に昇進し、講談の継承に努めている。



浅野奈実

あさのなみ ●宮城県出身。地域教育文化学部文化創造学科4年。和田教授の構成・デザイン研究室で紙の表現に着目した研究を行う。教授の薦めで応募した第23回コイズミ国際学生照明デザインコンペで見事、銀賞を受賞。

## 紙の可能性を追求して照明をデザイン、 応募作品800点以上の国際コンペで銀賞に輝く。

浅野奈実 地域教育文化学部4年

「大学進学の時もそうでしたが、就職もぜひ東北圏内だと考えています」と語る浅野さんは、文化創造学科の4年生。デザインに関心を持ちながらも芸術系の大学ではなく国立の総合大学を選んだのは、幅広い知識や経験を吸収した上で自らの適性や指向を見極めたかったから。アートやデザインの基礎をしっかりと学んだ上で和田教授の構成・デザイン研究室に入り、さまざまな角度からデザインについて学んできた。特に、折ったり、曲げたり、切ったり、ちぎったりと細工が自在で彩色も多彩な紙という素材の可能性に着目。その集大成ともいえる照明デザインを「第23回コイズミ国際学生照明デザインコンペ」に出品したところ、応募総数814点の中から銀賞に選ばれたのだ。金賞はハンガリーの学生で日

本人としては浅野さんの銀賞が最高賞。7月には東京で行われた表彰式にも出席し、審査委員から講評をいただき、レセプションでたくさんの人々と交流を深めるなど、視野を広める格好の機会を得た。

浅野さんの作品「弦月～Half Moon」は、薄い紙が幾層にも重なり細かくのり付けされているペーパークラフト素材・ハニカムペーパーをシェードに使っているのが特徴。広げるとハニカム構造になっており、半球形にしたり、輪のような楕円形にしたり、伸縮によって形を自在に変えて楽しむことができる。日本古来の提灯にヒントを得て、現代風に表情豊かにアレンジしている。他の作品の多くがLEDを使用するなど先進的な仕様であるのに対して、「弦月」は手作り感あふれる紙のシェードと白熱灯とい

うシンプルなもの。しかし、手にとってさまざまなに形状を変えられる楽しさやハニカムペーパーならではの影の変化や美しさが印象的なデザイン。和田教授も“これならきっといいところまでいける”と同コンペへの出品を勧めたのだった。

大きなタイトルを手にしながらも本人は至って冷静。気持ちはもう卒業制作の方に向かっている。山形で過ごしたのんびりとした毎日がとても性に合っていたと大学生生活を振り返り、卒業後は教育かデザインに関わる仕事に就きたいと抱負も語ってくれた。今回の受賞は、浅野さん自身の大きな自信となったばかりか、山形大学で芸術系を専攻する後輩たちにとっても大きな励みになったに違いない。

着目の成果



1

1 受賞作品「弦月～Half Moon」のプロトタイプを手に、実際にフォルムが自在に変化する様を説明する浅野さん。白熱灯のやさしい光がハニカムペーパーに映える。



2

2 「弦月～Half Moon」を半球形にディスプレイ。日本古来の提灯や行燈を彷彿とさせる情緒あふれる照明。左の写真と同一のものとは思えないほど印象が変わる。



3

3 去る7月20日に東京で開催された表彰式にて、喜びの表情の浅野さん。他の受賞者とともにインダストリアルデザイナーで審査委員長の栄久庵憲司氏を囲んで。

## ひらめき☆ときめき サイエンス ~ようこそ大学の研究室へ~



**11 | 13** (土) 10:00~16:00

### 有機の光を体験しよう

世界で今、一番注目をあびている「有機EL」について様々な体験をしてもらいます。はじめに城戸先生から「有機ELはどんなもの?」について教えてもらいます。その後、有機物質を合成したり、有機ELを作ってもらいます。昼食は、学食でちよっぴり大学生気分。3時のクッキータイムは、城戸先生への質問コーナーやフリートークの時間用意します。中学生の皆さん、楽しみながら心に残るステキな体験をしてみませんか。

場所/工学部(米沢市)

対象・募集人員/中学生 20名

参加費/無料

問い合わせ/工学部事務ユニット

研究支援チーム

TEL 0238-26-3004

## 特別セミナー

**11 | 30** (火) 13:30~17:00

### 山形大学有機ELセミナー 「地域に根ざし世界をめざす 有機エレクトロニクスの未来」 —山形大学の挑戦—

有機エレクトロニクスは、山形大学がもっとも注力している研究課題です。学長の結城プラン2010に基づき、世界的研究拠点形成を目指し人材獲得、研究環境整備を進めています。その活動を、より多くの方に知らせるため、東京でセミナーを開催します。

場所/東京ステーションコンファレンス

JR東京駅八重洲北口改札口より徒歩2分

対象・募集人数/約400名

参加費/無料

問い合わせ/総務部広報ユニット

TEL 023-628-4008

## 入学試験

### 人文学部(山形市)

- **推薦入試 I** (大学入試センター試験を免除する推薦入試)  
出願期間/11月1日(月)~4日(木) (祝日を除く。)  
試験期日/11月16日(火)・17日(水)
- **社会人入試** (法経政策学科のみ)  
出願期間/10月25日(月)~27日(水)  
試験期日/11月6日(土)
- **第3年次編入学**  
出願期間/10月4日(月)~7日(木)  
試験期日/11月6日(土)  
問い合わせ/人文学部学務チーム  
TEL 023-628-4207

### 地域教育文化学部(山形市)

- **推薦入試 I** (大学入試センター試験を免除する推薦入試)  
出願期間/11月1日(月)~4日(木) (祝日を除く。)  
試験期日/11月16日(火)・17日(水)
- **社会人入試** (文化創造学科のみ)  
出願期間/11月1日(月)~4日(木) (祝日を除く。)  
試験期日/11月16日(火)  
問い合わせ/地域教育文化学部学務チーム  
TEL 023-628-4310

### 理学部(山形市)

- **推薦入試 I** (大学入試センター試験を免除する推薦入試)  
(物理学科のみ)  
出願期間/11月1日(月)~4日(木) (祝日を除く。)  
試験期日/11月15日(月)  
問い合わせ/理学部学務チーム  
TEL 023-628-4710

### 医学部(山形市)

- **推薦入試 II** (大学入試センター試験を課す推薦入試)  
(医学科のみ)  
出願期間/11月1日(月)~4日(木) (祝日を除く。)  
試験期日/11月18日(木)
- **推薦入試 I** (大学入試センター試験を免除する推薦入試)  
(看護学科のみ)  
出願期間/11月1日(月)~4日(木) (祝日を除く。)  
試験期日/11月18日(木)  
問い合わせ/医学部入試担当  
TEL 023-628-5049

### 工学部 昼間コース(米沢市)

- **推薦入試 I** (大学入試センター試験を免除する推薦入試)  
出願期間/11月1日(月)~4日(木) (祝日を除く。)  
試験期日/11月20日(土)  
問い合わせ/工学部入試担当  
TEL 0238-26-3013

### 工学部 フレックスコース(米沢市)

- **推薦入試 I** (大学入試センター試験を免除する推薦入試)  
出願期間/11月1日(月)~4日(木) (祝日を除く。)  
試験期日/11月20日(土)
- **社会人入試**  
出願期間/10月25日(月)~27日(水)  
試験期日/11月20日(土)  
問い合わせ/工学部入試担当  
TEL 0238-26-3013

### 農学部(鶴岡市)

- **推薦入試 I** (大学入試センター試験を免除する推薦入試)  
出願期間/11月1日(月)~4日(木) (祝日を除く。)  
試験期日/11月18日(木)  
問い合わせ/農学部学務担当  
TEL 0235-28-2808

## 別科

### 養護教諭特別別科(山形市)

- 出願期間/11月1日(月)~4日(木) (祝日を除く。)
- 試験期日/11月20日(土)
- 問い合わせ/地域教育文化学部学務チーム  
TEL 023-628-4310

## 大学院

### 地域教育文化研究科(山形市)

- 出願期間/9月29日(水)~10月6日(水)
- 試験期日/10月21日(木)
- 問い合わせ/地域教育文化学部学務チーム  
TEL 023-628-4310

### 教育実践研究科(山形市)

- **一般入試**  
出願期間/11月5日(金)~10日(水)  
試験期日/11月19日(金)
- **現職教員入試**  
出願期間/9月29日(水)~10月6日(水)  
試験期日/10月21日(木)  
問い合わせ/地域教育文化学部学務チーム  
TEL 023-628-4310

## 附属学校

### 附属小学校

- 平成23年度 第1学年児童入学選考試験  
公示日/10月1日(金)
- 願書受付期間/10月25日(月)~11月4日(木)
- 選考試験/12月22日(水)・23日(木)
- 合格発表/12月24日(金)
- 問い合わせ/附属小学校またはホームページ  
TEL 023-641-4443・4444

山形大学の行事・催事のご案内です。  
地域に根ざした大学としてみなさんのご参加をお待ちしています。

## 記念式典

### 百周年記念会館落成式典

日時／10月9日(土) 14:30～15:20  
場所／工学部(米沢市)  
問い合わせ／工学部事務ユニット  
企画総務チーム  
TEL 0238-26-3005

## 公開講座等

### 人文学部

### 嵐の中の日本企業 ー再生への道標ー

日時／10月12日・19日・26日、11月2日・9日  
毎週火曜日 全5回 18:30～20:10  
場所／人文学部講義室(山形市)  
参加費／2,000円(大学生・高校生は無料)  
対象・募集人数／一般市民・高校生・大学生 30人  
問い合わせ／人文学部事務ユニット  
TEL 023-628-4203

### 理学部

### DNAでつなぐサイエンス

日時／10月23日(土) 13:00～16:30  
(実験)  
10月24日(日) 10:00～17:00  
(午前:実験/午後:講義)  
場所／SCITAセンター・理学部  
対象・募集人員／一般の方(高校生以上)  
40人(24日の講義は100人まで受講可能)  
参加費／1,000円(講義のみ参加の場合は500円)  
問い合わせ／理学部事務ユニット  
TEL 023-628-4505  
※大学祭と同日開催

### 工学部

### 次世代ロボットデザインセンターが描く “ロボットの未来・明日のカタチ”

日時／10月2日(土) 13:00～16:00  
場所／工学部(米沢市)  
対象・募集人員／高生以上 40名  
問い合わせ／工学部事務ユニット広報室  
TEL 0238-26-3419

### 農学部

### 収穫体験 大学農場へ行こう!

日時／9月27日(月)～10月29日(金)  
(土曜、日曜、祝祭日を除く9:00～12:00)  
場所／農学部附属やまがたフィールド科学  
センター 高坂農場(鶴岡市)  
内容／リンゴ狩り  
対象・募集人員／幼稚園・保育園児等  
混雑防止のため1日2組(先着順)  
申込期間／8月30日(月)～10月22日(金)  
参加費／収穫物代金のみ  
問い合わせ／農学部附属やまがたフィールド科学  
センターエコ農業部門(高坂農場)  
TEL 0235-24-2278

### 附属学校

### 秋の研究協議会2010

日時／11月12日(金) 8:30～16:30  
場所／附属小学校(山形市)  
対象・募集人員／一般・学生の方  
問い合わせ／附属小学校  
TEL 023-641-4443・4444

### 附属特別支援学校 高等部ハートバザー

日時／10月26日(火)・27日(水)  
10:40～14:10  
場所／山形大学学生会館前  
問い合わせ／山形大学附属特別支援学校  
(高等部)  
TEL 023-631-0918

### 公開研究会

日時／11月26日(金) 9:20～16:00  
場所／山形大学附属特別支援学校  
問い合わせ／山形大学附属特別支援学校  
TEL 023-631-0918

### 学習発表会 ステージ発表や高等部ハートバザー等

日時／12月10日(金) 9:00～12:00  
場所／山形大学附属特別支援学校  
問い合わせ／山形大学附属特別支援学校  
TEL 023-631-0918

## 大学祭

### 小白川キャンパス

### 八峰祭

日時／10月23日(土)・24日(日)  
場所／小白川キャンパス(山形市)  
内容／ミスコン・逆ミスコン、箱の中身は何だ  
ろな?、いい声選手権、野外特設ステージ、  
中夜祭、ハッピーパーク、なんでも質問コーナー  
問い合わせ／課外活動担当  
TEL 023-628-4121

### 医学部

### 希華祭

日時／10月10日(日)  
場所／飯田キャンパス(山形市)  
テーマ／医新前進 ～はじめの一步～  
内容／救急講習会、気持ち企画、受験生企  
画、アロマ企画、Joy喫茶、模擬店、フリー  
マーケット、献血、パネル展示、室内合奏団  
コンサート、ステージイベント、ホスピタル  
クラウン(病院内企画)  
問い合わせ／医学部学務ユニット  
学生生活支援担当  
TEL 023-628-5053

### 工学部

### 吾妻祭

日時／10月9日(土)～11日(月)  
場所／9日 米沢女子短期大学構内  
10日・11日 山形大学工学部構内  
テーマ／LINK～僕らが繋ぐこの瞬間～  
内容／Little Journey Tour 2010 清水翔太、  
弾丸ジャッキー 爆笑ライブ in 山大特設ス  
テージ、山大研究室・米短資料室～公開なう～  
※同時開催(9日 工学部キャンパス構内)  
第10回山形大学工学部重要文化財コンサート  
ルネサンス・カフェ癒しの響き(15:00～)  
米澤高等工業学校初代校長 大竹多氣展(9～15日)  
工学部保護者の集い(10:00～12:00)  
第4回ホームカミングデイ(13:00～14:10)

### 農学部

### 11月祭

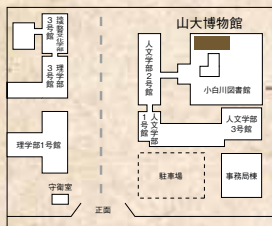
日時／11月6日(土)・7日(日)  
場所／農学部(鶴岡市)  
テーマ／轟(とどろき)  
内容／野菜即売会、研究室紹介、サークル発  
表、模擬店、ミニSL、もちつき等  
※同時開催(6日)  
ミニオープンキャンパス(13:00～)

# 山大博物館

YAMADAI MUSEUM

## シリーズ 15

山形大学附属博物館の収蔵品をはじめ、大学が誇る貴重な資料を紹介いたします。



図書館及び博物館は学外の方もご利用いただけるように開放しております。利用方法等は図書館カウンターにお申し出ください。知的宝物がいっぱいの図書館・博物館に是非お越しください。

50号の大画面に小砂川海岸(秋田県にかほ市象潟町)の風景が描かれています。左下のサインによれば、描かれたのは昭和7年の8月。曇天の空の下、日本海、馬上の人、オニユリの咲く庭、坂を上っていく二人の人物が、それぞれ遠近を違えて描かれており、まるで映画のワンシーンを切り取ったかのような光景です。

作者の小塚義一郎は静岡県に生まれ、東京美術学校(現東京芸術大学)図画師範科で岡田三郎助や小林萬吾らに実技を学び、外光派の絵画技法を身につけました。大正11年、山形県師範学校の図画教師として赴任すると同時に山形高等学校の図画講師を兼任。同年、当時山形高等学校の学生で後に高名な美術評論家となる今泉

篤男や、山形工業学校(現山形大学)図画教師の為本自治雄らと山形で初めての公募洋画展を開催したグループ「毒地社」を結成するにあたって指導的な役割を果たします。その後美術教師を中心とした「向陽会」を結成するなど、昭和14年郷里に戻るまで後進の育成に努めました。

附属博物館では師範学校や山形高等学校の伝統を引き継ぎ、多数の資料を所蔵しています。今年これらの資料を基にして、山形近代美術の基盤を築きながらもあまり顧みられることのなかった「毒地社」を紹介する展覧会を開催しました。地域の歴史と文化を多くの方々と共に後世に伝えていく、それが当館の大事な使命なのです。(附属博物館 森谷菜穂子)



※特別展「毒地社とその時代展」は平成21年11月9日～20日の会期で開催されました。

小塚義一郎  
《小砂川海岸》  
80.3×110.7センチ 昭和7(1932)年 油彩カンヴァス

### 編集後記 Editor's Note

今号を一読して、グローバル化が進む今の世の中で、今後「在来」はどうあるべきかを考えさせられた。在来野菜の話と世界的工学研究の話は一見別次元のようではあるが、ともに、地方であることを客観的に見つめ、そのメリットを分析し、中央と対置しながら切磋琢磨していく姿勢が共通するように思えた。「これからは地方の時代」と言われて久しいが、昨今のグローバル化の波を考えれば、そう簡単に地方の時代が来るとも思えない。地方が押しつぶされ、平準化されていく大勢はまだまだ続くのではなからうか。しかし「在来」の魅力は確かにある。問題は、その魅力を知り発信できる人の少なさなのだろう。中央を知り、世界を知っているからこそ、地方にしかない価値がわかるのであり、グローバル化に抗して生き残れるもの、残すべきものが見えてくるのではないか。単純な地元志向、田舎回帰からは何も生まれないことを学生諸君にも肝に銘じてもらいたい。(みどり樹編集委員会委員 中村篤志)

表紙のことば

アル・ケッチャーノの隣に並ぶカフェ&ドルチェ「イル・ケッチャーノ」の店内にて談笑する奥田シェフと江頭准教授。在来野菜を愛する料理人と研究者の出会いの場が任内だったことも大きな幸いだったに違いない。

- この「みどり樹」は山形大学ホームページでもご覧いただけます。  
山形大学 みどり樹 検索
- 「みどり樹」に対するご意見・ご質問等をお気軽にどうぞお寄せください。  
E-mail: sombun@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
- 「みどり樹」は、3月、6月、9月、12月に発行する予定です。

—地域に根ざし、世界を目指す—



山形大学ホームページ <http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html>